

赤十字かごしま

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

発行所
日本赤十字社鹿児島県支部
〒890-0064
鹿児島市鴨池新町1番5号
TEL 099-252-0600

第189号 平成24年1月発行

赤十字基本原則：人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性

新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、日頃から赤十字事業への深いご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

顧みますと、昨年は、東日本大震災をはじめ、国内外において大きな自然災害が発生し、各地で甚大な被害をもたらしました。

鹿児島県内におきましても、奄美大島地方で9月、11月と連続して豪雨に見舞われ、土砂崩れや家屋の全半壊、床上・床下浸水による被害が発生したほか、新燃岳や桜島の噴火による影響も懸念されております。

日本赤十字社鹿児島県支部としては、このような災害に対して、医療救護班の派遣や救援物資の配布、義援金の募集など各種の人道支援事業を展開してまいりました。県民の皆様には、その都度温かいご支援を賜り改めて厚くお礼申し上げます。

ご承知のように日本赤十字社は、国際活動や災害救護活動、医療事業、血液事業、社会福祉事業、各種講習普及事業など多くの事業を展開しておりますが、これらの活動は皆様方の温かい善意と、積極的な参加に支えられております。

本年も昨年に引き続き、「人道」の旗印の下、積極的に展開してまいりますので、何卒ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年が平和で穏やかな一年となりますよう、皆様方のご多幸とご健勝を祈念し、新年にあたってのごあいさつとさせていただきます。



日本赤十字社鹿児島県支部
支部長 伊藤 祐一郎

平成23年度「海外たすけあい」キャンペーン

～皆様のご協力ありがとうございました～

日本赤十字社では、12月1日（木）～25日（日）まで「海外たすけあい」キャンペーンを実施し、寄付金の募集を行いました。この事業は、NHKと共同で昭和58年から始まり今回で29回目を迎えました。

昨年3月に発生した東日本大震災の甚大な被害に対して、世界中の多くの人々から支援をいただきました。その御礼を含め、また、一方で開発途上国の多くは保健衛生や災害対策、青少年の教育支援等のあらゆる面にわたって、資金や技術が不足しており、開発途上国への継続的な援助活動が必要なことから取り組んでいます。

鹿児島県支部では、期間中、鹿児島市の山形屋、高プラ、ドルフィンポートの玄関前に募金箱を設置し、また、鹿児島市、薩摩川内市、鹿屋市の中心街では、小・中・高等学校青少年赤十字のメンバーをはじめ、青年赤十字奉仕団、青少年赤十字賛助奉仕団、鹿児島市地域赤十字奉仕団、久光製薬株式会社鹿児島支店のご協力をいただき、街頭募金活動を行いました。

県民の皆様から温かい多くの善意が寄せられました。この寄付金は日本赤十字社本社を通じ、世界各地で苦しんでいる人々を救う国際活動の事業に使われます。ご協力ありがとうございました。



元気いっぱいの声で呼びかけを行う青少年赤十字のメンバー

『AI LOVE SATSUMA!, つなげよう命!』を開催

～鹿児島県出身の歌手 AI さんも参加。会場に約 1,500 人の若者の熱気～

若年層に献血を呼び掛ける鹿児島県ヤング献血フォーラム「AI LOVE SATSUMA!, つなげよう命!」を 11 月 24 日、鹿児島市の宝山ホールで開催しました。

これは、近年の少子高齢化に伴う人口構造の変化などにより、将来的に輸血用血液の需要増大が予想される反面、10 代から 20 代の若者の献血協力者数が減少して輸血医療に支障をきたす恐れがあるため、若年層への献血啓発を目的として 16 歳～ 29 歳の若者等約 1,500 人を招待して行ないました。

フォーラムでは、まず、東日本大震災における日本赤十字社の活動紹介と、献血の必要性を訴えたドキュメンタリー「アンパンマンのエクス」の DVD を放映。その後、DJ でお馴染みの山本シュウさんが進行を務め、全国や鹿児島県における年代別献血者数のグラフを用いて献血の現状を伝えた後、高校生や大学生、社会人などの代表者 24 名と、献血・ボランティアについてのトークショーを行ないました。



また、鹿児島県出身の歌手 AI さんにも出演いただき、血液センターの吉田紀子所長も加わってのトークショー、そして最後は AI さんのミニライブも行なわれ、会場の若者が総立ちし、ステージと一体となるなど大盛況のうちに終わりました。

このフォーラムを機会に、若年層の更なる献血への協力が期待されます。



成人式を迎える若者を中心に・・・

「はたちの献血キャンペーン」を実施します。

献血者が減少しがちな冬期において安全な血液製剤を安定的に確保するために、本年も『はたちの献血キャンペーン』を実施します。

新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心として広く国民各層に献血に関する理解と協力を求めるとともに、特に、成分献血、400mL 献血の継続的な推進を図ることとしております。

なお、キャンペーン期間中（平成 24 年 1 月 1 日～ 2 月 29 日）、各献血会場に設置された専用応募用紙にて申し込みいただいた献血者の方の中から抽選で、プロゴルファー石川遼選手の下記のグッズを差し上げます。

是非、献血へのご協力をお願いいたします。

A 賞：「石川遼 エキサイトゴルフ」（1 名）

B 賞：「石川遼 オリジナルタオルセット」（10 名）

C 賞：「石川遼 キャラ入りミニノート型携帯型ストラップ」（30 名）

石川遼さんの
記念品も抽選で
当たります





感染予防「手洗いについて」

敵を知り 己を知れば 百戦危うからず -孫子の兵法より-

鹿児島赤十字病院 ICT(感染対策チーム)委員 宮園孝子

日本には四季折々、流行する感染症があります。冬場の代表はインフルエンザです。子どもさんやお年寄りがおられる家庭では、保育園、学校、病院などである程度の情報は得られると思いますが、テレビや新聞、広報誌などで感染症流行の情報をいち早くキャッチし予防と対策を実行することも大切です。感染症の予防を呼びかける文章でよく目にする「手洗い」と「うがい」。何のために必要なかを理解して効果的に行いましょう。この2つを行う意味は、「自分の体の中に病原体を持ち込まない」ということです。多くの病原体は、のどや消化器官の粘膜、目の粘膜、鼻の粘膜から感染します。これらの粘膜に病原体の付いた手で触らないために、「手洗い」を行います。また、呼吸によってのどの粘膜に付いてしまう病原体を洗い流すために「うがい」を行います。

咳やくしゃみで飛び散った唾によって、近くにいた人やテーブルが汚染されます。咳やくしゃみを抑えようと口を押さえたために汚染した手で、手すりやつり革を持つ、エレベーターのボタンを押す、ドアノブを触るなど。たくさんの人が触れる場所はこのように汚染していきます。そして人は無意識に自分の顔、鼻、目を触り、知らないうちに感染してしまふのです。病原体が住みついてしまう前に手洗いを洗い流してしまいましょう。公共の場所では設置してあるアルコール消毒を使うこともおすすめします。咳やくしゃみがでるときは、マスクをつける、ティッシュで鼻口を覆い、周りの環境を汚さない、そして、トイレの後の手洗いも大切です。

時代が変わっても、医療が発達してどんな抗菌薬が出たとしても、手洗いこそが普遍的な感染対策、最も簡単な方法であることを忘れないでいてください。

インフルエンザを予防しよう！！

インフルエンザは咳やくしゃみにより、感染します。



インフルエンザウイルス

感染しない為には、予防が基本です！



咳が出る時はマスクを着用しましょう。



手洗い・うがいは感染予防の基本です。



777の接種をしましょう。777が効果を発揮するまでには、約2週間かかります。早めに接種しましょう。

H23年度 看護部感染対策委員会

特別養護老人ホーム錦江園の

クリスマス会

現在、錦江園には71人の利用者がいらっしゃいますが、去る12月22日に錦江園のクリスマス会が行われました。

広場にクリスマスソングが流れるなか、鈴の音とともに現れたのは園長扮するサンタクロースと職員のトナカイです！プレゼントをたくさん載せて皆さんに配って歩きました。サンタクロースからのプレゼントに皆さま大喜びでした。



最後はクラッカーを鳴らし、クリスマスケーキとシャンパンで乾杯！！笑顔いっぱいのクリスマスとなりました。

最後はクラッカーを鳴らし、クリスマスケーキとシャンパンで乾杯！！笑顔いっぱいのクリスマスとなりました。



「救急法基礎講習」と「幼児安全法講習」がリニューアル!!

より効果的な心肺蘇生に関する国際コンセンサスと国内版ガイドラインの発表を受け、日本赤十字社が行う「救急法基礎講習」と「幼児安全法講習」が12月1日から新しい内容に変わりました。

この変更を受けて日本赤十字社鹿児島県支部では、講習を行う救急法等指導員への伝達研修を終え、新しい内容での講習をスタートさせています。

「幼児安全法」は小さな子どもをお持ちの保護者や、日常的に子どもに接する機会の多い保育士、幼稚園・学校教諭等の方々に特にお勧めです。

この機会に是非、新しい内容の講習を受講してみませんか。講習の開催予定等詳細は下記へお問い合わせください。

○講習専用：099-256-2099



伝達研修の様子（心肺蘇生）



伝達研修の様子（乳児の異物除去）

社会貢献活動をお考えの企業さまへのご案内

日本赤十字社の活動は、赤十字の趣旨にご賛同いただいた皆様からお寄せいただいた浄財で支えられています。人間のいのちと健康、尊厳を守る赤十字の活動に、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

～企業さまによるご協力例～



- 創立記念事業としての寄付
- チャリティイベントの収益金を寄付
- 売上等の一部を寄付
- 従業員のみなさまや店舗利用者さまによる募金
※ご希望の場合は、募金箱を貸出いたします。

○寄付金付き自動販売機の設置

コーヒー、ジュースなどお買い上げのたびに、一定の額が赤十字の寄付金となります。事業所等での設置についてぜひご検討ください。



- 売上等の一部が赤十字への寄付金となります。
- 設置者の社会貢献活動としてアピールできます。
- 設置者様のご負担はございません。

※詳しくは日赤鹿児島県支部までお問い合わせ願います。

～法人社員証（アクリル製ディスプレイパネル）～



日本赤十字社鹿児島支部に事業資金のご協力があった法人・団体様に、社会貢献 PR 等にご活用いただくため、左掲のご協力を証する「社員証（会員証）」をご希望により贈呈させていただきます。（A6サイズ 105mm×148mm）

🔑 ～ご自身や故人の思いを赤十字へ～ 🔑

各種寄付金を申し受けます。

ご自分や故人の財産の一部、或いは「香典返し」に代えてご香典の一部を広く社会に役立てたいとお考えの方へ、当県支部では、遺産・相続財産の寄付や香典返しによる寄付を申し受けます。また、これらの寄付金には非課税となる税制上の優遇措置があります。詳しくは日本赤十字社鹿児島県支部組織振興課までお問い合わせください。

+ 日本赤十字社鹿児島県支部
組織振興課

☎ 099-252-0600

ホームページ <http://www.minc.ne.jp/nisseki/>

代表メール shibu-rc@po.minc.ne.jp

日赤鹿児島県支部

検索